

市民協働推進モデル事業相互評価表

事業名	慢性疾病を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援および交流を支援する場「ポケットスペース」		実施団体名	特定非営利活動法人 ポケットサポート	事業総額 (決算額)	1,518,565円
	担当課名	岡山市健康づくり課				
NO.	評価項目		自己採点 (各項目20点満点)	評価の理由		
1	目的・課題 目標設定	当初に設定した目標を達成することができましたか？	19/20	慢性疾病で通院している子どもへの学習支援新たに始めることができた。予想よりも多くの子どもたちに支援を提供することができた。さらに今後医療・福祉・教育の場で活躍する大学生へ病弱児理解と支援についても学ぶ機会となっていた。		
2	発展性	さらなる発展や波及につながる成果を得られましたか？	19/20	課題解決に向けて確かな効果を得ることができた。継続性に必要性を感じ、次年度以降の事業の展開について十分な話し合いが行われている。		
3	実現性	連絡調整、経理、報告など事業に関する事務は適正に行われましたか？	20/20	電話やメールでの連絡や会議において、円滑な連絡調整が行われた。経理報告など事業に関する事務も適正に行われ、スムーズな活動へとつなげることができた。		
4	成果	利用者、参加者をはじめ、市民の満足度向上につながりましたか？	20/20	予想以上の反響があり、利用者やその家族、さらに講演会参加者、市民の皆様の満足度は高かった。今後継続の声も聴いており、今後発展させていく必要性を強く感じた。		
5	協働効果	相互が役割と責任を担い、協働による相乗効果を生むことができましたか？	20/20	会議などで共有したことを各内部での検討にも反映させ、それぞれの役割に従って、活動を円滑に行うことでより効果的に子どもたちへの支援活動を実践することができた。		
6	総合評価(実施団体より)		岡山市健康づくり課と共働することで、事業がスムーズに行え、病気の子どもたちへの支援が充実した。新たな関係各所とのつながりができ、当団体単独では実施できないことや時間がかかるようなことが、この期間で実施でき、活動の幅が広がった。活動の中で健康づくり課からの適切なアドバイスを受けることができ、今後の支援の拡充への課題と事業展開の方向性が明確になった。			
	総合評価(担当課より)		各事業において、目的を明確にし目標を設定することを意識して取り組めた。特に反省会や活動の振り返りに重点を置き、課題の整理や今後に向けた新たな目標設定について話し合いを行った(会議7回、連絡情報交換50回以上)。協働実施することで、地域の資源や、事業を実施するための必要条件などアセスメントすることができ、施策化の妥当性、事業の内容など検討事項を分析する一助となった。			
	総合評価(ESD・市民協働推進センター)		一年間を通じて安定的に学習機会を提供することができただけでなく、院内外での周知や運営体制の整備(ボランティア向けのマニュアル作成等)も進み、初年度で為すべきことが概ね達成されたと感じられました。中でも岡山大学病院の協力は子どもと家族の安心感や利便性を高めるうえで不可欠な要素となりましたが、担当課の積極的な関与が3者の連携強化を後押ししたことは疑いなく、協働効果もおおいに発揮されました。第一回「協働のまちづくり賞」大賞の受賞など、事業の意義は広く理解されはじめているので、一般施策化(小児慢性特定疾病児童等の自立支援事業の実施)に向けてさらなる成果の蓄積と気運の醸成に努めていただきたいと思います。			